

大好き！ 久根田舎 私のふるよん！

歴史あるものが
沢山あるところが好き！

人がやさしい
ところが好き！



齋藤 すめれさん(佐瀬中2年)

三上 聖(と)さん(佐瀬中2年)

自然が豊かな
ところが好き！
桜がきれいな
ところが好き！



初村 由羽(と)さん(金田小2年)

お米がおいしい
ところが好き！
齋藤 眞之介(と)さん(金田小3年)
初村 一颯(と)さん(金田小5年)

お盆の帰省時期に合わせて開催した祭りの一場面。(白熱した腕相撲の様子！勝負の行方は??)



全国的に人口減少や少子高齢化といった出口の見えない問題に直面しており、コミュニティの低下や、歴史ある地区行事などの縮小が徐々に進み、最悪の場合は廃止となるケースもあります。これは皆さんの地区の中でも感じていることではないでしょうか？

そのような中、巖原町久根田舎地区では「地区の人に、そして地区出身者にもっと久根田舎を好きになってもらいたい」との思いから、精力的な活動を行っています。

歴史と伝統が色濃く残る地区「久根田舎」

対馬の南西部に位置する巖原町久根田舎地区。銀が産出したという伝説が残り、銀山上神社には鉱山の神とされる諸黒神が祀られています。また、安徳天皇が逃れてきたという伝説とともに御陵墓参考地が所在するなど、古い歴史と伝統が残る地区です。



安徳天皇が眠るとされる
宮内庁指定の御陵墓参考地



対馬を治めた宗家も大切にしていた
銀山上神社



重箱を持ち寄った直会の様子
地区で行う様々な行事が
今も多く残っている

久根田舎



地区の魅力を自分たちで高めよう

久根田舎地区では「自分たちでできることは自分たちで」の精神で、地区の課題解決に取り組んでいます。地域マネージャーとともに考え行動し、対馬市「わがまち元気創出」支援事業を有効活用しながら、安徳天皇が眠ると言われている丘の周辺を整備し、ツツジやサツキなどの植栽も行いました。また、通学路で利用している橋が老朽化して危険であるとわかれば修理して、子どもたちが安全に渡れるようにしました。

このような活動が、区民のふれあいの場所となるだけでなく、地区の新たな魅力の発見にもつながっており、また、次の取り組みへの足がかりにもなっています。



30年ほど前に久根田舎に
Uターンした 初村 久喜さん

できることから取り組んでいきたい

これまでも地区の課題には、地区の人たちで協力してやってきましたが、年々住民が少なくなっていくので、寂しい思いをすることが多くなってきました。そんな状況の中で、何かできることがないかと、地域マネージャーをはじめ、地区の若い人たちの提案によって、地区が少しずつ前に進んでいるような思いがします。

地区での取組は、お年寄りには気晴らしになり、子どもたちや若い人たちには地区とのふれあいの場所になっています。

新たな取組が地区を元気に

地区を元気にしたいという思いから、区民のアイデアを基に新たな取組みにチャレンジしました。平成25年には、老朽化していた地区の案内板を改修し、当時、小中学生だった子どもたちが描いた絵を入れ、親しみやすさと思入れのある案内板にしました。

また、平成28年にはカレンダー「久根田舎暦」を作成しました。区民だけではなく、島外に住む出身者、そして縁のある全ての人に知ってもらうために、現在でも旧暦で行っている地区行事や歴史ある名所などを盛り込みました。

その反響は大きく「祭りに参加したい」「知り合いにも配りたい」などの声をはじめ「うちでも作れないか」「参考にさせてほしい」など他地区からの相談も相次ぎ、作成したカレンダーは瞬く間に無くなりました。



私たちが小学生の頃に描いた絵です！

見に来てネ！



魅力いっぱいのカレンダーを作ったよ！

カレンダーには、安徳天皇をイメージしたモデルと地区の風景を掲載。区民や島外に住む地区出身者に配りました。



カメラマンやデザイナーなど6人のスタッフがカレンダーづくりのため来島しました

地区の人たちの思いに共感

対馬出身で、現在は福岡でデザインの会社を営んでいます。今回ご縁があつて、地区の方から『沢山ある行事を忘れないためにカレンダーを作りたい』として依頼を受けました。

地区の方にお話を伺うと、歴史や伝統をととても誇りにされていて、それを形にしようと、モデルとともに地区に入って撮影を行いました。地区の人たちの思いが詰まったカレンダーを作成したことはとても貴重な経験になりました。このカレンダーをきっかけに、対馬の良さや対馬らしさを多くの人に知ってもらえたらうれしいです。



カレンダー作成を請け負った小嶋 讓司さん

手作りの祭りでふるさとを盛り上げる

お盆になると多くの方が帰省しますが、帰省した人も区民も昔のように家々を回って酒を酌み交わすなどの機会が少なくなり、親戚やご近所での交流にとどまることが多くなってきました。

そこで、平成29年にはお盆の帰省時期に合わせて、区民間の交流と地区の賑わいを目的とする祭りを企画しました。

その名も「KUNEい〜なか祭り」。

福祉館前に特設ステージを設置し、育成会の出し物やカラオケ・漫才・腕相撲・丸太切りなどのイベントに加え、地元商店や消防団の協力を得て各種出店も取り揃えました。あいにくの雨ではありましたが、会場には、たくさんの老若男女が集まり、大いに盛り上がりました。

また、この日は、各家庭で保管されていた地区の風景や人物などの懐かしい写真を集めた「昔なつかし〜写真展」も福祉館内で開催しました。

この祭りを通じて、地区の人は、ふるさとを見つめ直し、未来を考え、帰省した人は、懐かしみ、ふるさとの大切さを改めて感じる機会になり、参加した全ての人の心に残る1日となりました。



真剣勝負!女性による丸太切り



古くは昭和20~30年代の写真を展示しました



初村 憲香さん
(対馬高校2年)

地区の誇りを引き継いでいきたい

地区の人たちに大切に育ててもらったなと思っていますので、私も地区の活動に参加して、少しでも多くの人に地区のことを知ってもらいたいと思っています。

進学を予定していて、いったんは島外に出ることになりそうですが、対馬を支える人になりたい、地区の人たちの強い絆を、引き継ぐことができるようになりたいと思っています。

未来へつなげるために

今回紹介した久根田舎地区は、人口減少や少子高齢化の影響を受け、これからの地域コミュニティをどうやって維持しようかと模索している中、大調小学校が昨年3月に閉校となる寂しい出来事もありました。

しかし、地区を少しでも盛り立てようと、大調小学校の校訓「大調和だいちょうわ（和の精神、調和の精神、大きな和合の精神）」の精神で、地区の歴史や文化、そして人々の絆を見つめ直し、一歩ずつ着実に前に進んでいます。

先人が守ってきた景観や文化を大切に、子どもや孫の代、何代過ぎてもこの地区を誇りとして生きてほしいとの思いは区民の切実な願いです。

そのためには地区のみんなで支え合い、つながる暮らしが必要です。それは都会にはないその地域に根差した暮らしではないでしょうか。脈々と受け継がれる地域づくりへの思い、その思いは未来へとつながり、大好きなふるさとを支え続けるでしょう。